

貫汪館廣島護国神社奉納演武

澁川一流柔術

4月1日、廣島護国神社儀式殿において、貫汪館の恒例行事である無雙神傳英信流 拔刀兵法及び澁川一流 柔術の奉納演武を行いました。今回の参加者は25名、廣島護国神社への奉納は14回目となりました。

演武に先立ち廣島護国神社の潮瀬宜様より、「新渡戸稲造が我が国の武士道精神を世界に紹介して広めま



演武者一同

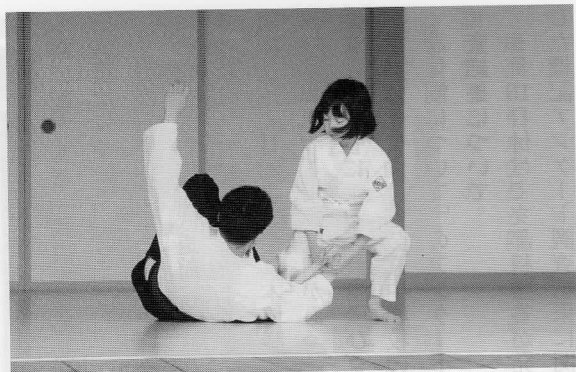
した。武士道精神は現代においてもあるべき日本人の道徳感を説いているものだと思います。武士道では、『義』『勇』『仁』『礼』という四つの心を重要視します。『義』とは、人としてあるべき姿を見失わず正しい行いをする心。『勇』とは、恐怖に負けず正義を貫こうとする強い心。『仁』とは、相手を思いやる優しい心。『礼』とは、相手を一人の立派な人間として認めるという心を表します。昨年の震災を通じて世界に賞賛された日本人の規律の正しさ、他人を思いやる気持ちは、武士の時代の心が、今の我々にも脈々と受け継がれている証しだと思います。皆さんも武道を通して、これらの精神をしっかりと育てて下さい」とのお言葉を賜りました。

貫汪館顧問岡田民哉先生よりの、「お茶の世界では、『見てこそ習え』という言葉があります。今日は、先生方の技を自分の眼で盗むくらいの気持ちで見学しましょう」との挨拶

に続き、貫汪館館長森本邦生先生は、「今日の演武は人に見せるためではなく、神様に見ていただくためのものです。子供たちは、日頃指導されている内容をよく思い出し演武して下さい。大人の方は上手に見せようとせず、今まで養ってきたものを素直に出して下さい」と挨拶しました。

演武は、岡田先生の居合、森本先生の柔術に続いて、各門弟が日頃稽古している居合、柔術の形をそれぞれ交互に奉納しました。今回、柔術を学ぶ子供たちの多くが、受が懐剣で捕に斬りかかる「打込」の演武を行いました。固まらず柔らかい動きで懐剣を捌けていたように思います。一方、大人は、失敗のないようにと、丁寧すぎる演武をしていたように感じました。私自身も「上手く見せよう」とする雑念を払うことが出来ないままの、はなはだ不本意な内容であったと猛省しております。奉納演武は貫汪館館長の森本先生の無雙神傳英信流 拔刀兵法をもつて終了しました。

閉会に際し、貫汪館顧問上條雅弘先生より「今日は皆さんの頑張る姿をありがたく拝見しました。今後と



演武する少女

もしつかり精進して下さい」とのお言葉をいただきました。最後に、森本先生より、「今日の奉納演武で、自分の至らぬところをたくさん気付かせていただいたと思います。自分の課題が何かを見極め、しっかりと稽古を積んでそれらを克服していつて下さい」との講評をいただきました。私も日々の稽古を疎かにせず自身の課題の克服に励んで参りたいと思います。

(文責 澁川一流柔術後学 濱村多賀司)